

# インフォメーション

登録衛生検査所 臨床 宮崎

TEL0985-52-6688

FAX0985-52-8093

## 検査方法変更項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご愛顧を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

さて、生化学検査の【ALPおよびLDH(LD)】検査方法に付きまして、日本臨床化学会より「2020年4月から現在のJSCC法(日本標準化対応法)をIFCC法(国際標準化対応法)へ変更する(猶予期間1年)」との発表がございました。

これに伴い、弊社と致しましても、こちら項目の検査方法を変更させて頂く事となりましたので、ご案内申し上げます。

事情をご賢察の上、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

謹白

## 記

### ◆ 変更内容:

- ALP(アルカリホスファターゼ)
- LDH(LD)(乳酸デヒドロゲナーゼ)

**【ALP】は、参考基準値が変更となります**

この為、令和3年4月1日(木)~4月30日(金)期間中の、ALPご依頼分につきましては  
旧法(JSCC法)の換算結果も同時報告させていただきます

尚、令和3年4月1日(木)より、旧法(JSCC法)の電子媒体結果報告は致しかねますので  
予めご了承ください

### ◆ 変更期日: 令和3年4月1日受付分より

※詳細に付きましては裏面をご参照下さい

## ■ ALP(アルカリホスファターゼ)

### ◆ 検査内容:

	新	旧
項目コード	105	同左
項目名	ALP	同左
参考基準値	38~113	100~340
単位	IU/L/37℃	同左
検査方法	IFCC法(改定JSCC法)	JSCC標準化対応法

※ その他変更はございません

### 【日本臨床化学会の資料記載内容】

- 測定値が(現行の JSCC 法に比べて)1/3 程度の数値になります
- ALP について、「換算係数」は次のとおりです
  - ・ JSCC 法測定値から IFCC 法測定値に換算 : 0.35 倍
  - ・ IFCC 法測定値から JSCC 法測定値に換算 : 2.84 倍
- 変更前後の値の換算には限界があります  
IFCC 法に変更することで血液型 B,O 型では小腸型 ALP を含む検体で低めになり、逆に妊婦では胎盤性ALPが増加する事により高めに測定されます

## ■ LDH(LD)(乳酸デヒドロゲナーゼ)

### ◆ 検査内容:

	新	旧
項目コード	112	同左
項目名	LDH	同左
参考基準値	119~229	同左
単位	IU/L/37℃	同左
検査方法	IFCC法(改定JSCC法)	JSCC標準化対応法

※ その他変更はございません

### 【日本臨床化学会の資料記載内容】

- 変更前後の測定値の差が軽微であり、健常者の測定値は許容誤差範囲内の変化であることから、現状の共用基準範囲を変更する必要はありません
- LD5 優位検体では現行の JSCC 法に対して低めの活性になります  
(LD5 が 50%の症例では測定値の差は 20%未満)
- 「換算係数」については、『換算せず、そのままの測定値を使ってください』

### 【参考 URL】

一般社団法人 日本臨床化学会 「ALP、LD の測定方法の変更に関するご案内」( <http://jscc-jp.gr.jp/> )